



評価結果	目標達成度合いの測定結果	(各行政機関共通区分) 進捗が大きい  (判断根拠) ①:花粉の飛散量予測については、予測制度に関する指標として、各地の予測花粉量と実測花粉量との相関を元にした寄与率を指標として設定した。近年の状況を見ると、予測精度は年度によってバラつきがあるが、平成26年度は大雪の影響等もあり達成できなかった。 ②:黄砂による健康影響に係る調査については、ぜんそく患者と黄砂飛散との関連性について調査を行っており、正確な結果を得るためには一定以上の調査参加者を確保する必要があることから、その人数を目標として設定した。昨年度はパイロットスタディ時より患者を増やし、100人を目標としたが、地域内の小児ぜんそく患者数自体に限りがあることから、これに満たない数となった。 ③、④:熱中症に関する普及、啓発事業については、各自治体でどの程度熱中症に関する意識付けがなされているかどうかの指標として、自治体からの希望に応じて作成する熱中症普及啓発資料の部数及び講習会に参加した自治体における「暑くなる前からの熱中症対策実施割合」を指標として設定した。資料の作成部数が前年度と比較して100万部以上の増加見られることや、ほぼ100%の自治体が暑くなる前から熱中症対策を行っていることを踏まえると、各自治体において一定の意識付けがなされているものと考えられる。		
	施策の分析	①花粉の予測については、平成26年度は3回の報道発表を行い、国民への情報提供を行った。 ②黄砂による健康影響については、計画に沿って疫学調査を行い、知見の収集を行った。 ③、④の熱中症対策については、自治体からの要請等に基づき、各地で適切な対策がとられるよう取組を推進している。 ※熱中症と気候変動、ヒートアイランド※ 今後、気候変動の進行によって熱ストレスがさらに増大した場合、ヒートアイランド現象の悪化、これらに伴う熱中症の増加についても懸念されることから、目標1-1「地球温暖化対策の計画的な推進による低炭素社会づくり」に記載された適応を含む気候変動対策、また、目標3-2「大気生活環境の保全」に記載されたヒートアイランド対策とも③、④熱中症対策の成果について情報提供を行うなど連携を図る。		
	次期目標等への反映の方向性	【施策】 ①花粉の予測については、予測精度の向上に限界があることや民間でも同様の予測が行われていること等を踏まえ、事業のあり方を検討する。 ②黄砂の健康影響については、平成28年度までの計画で疫学調査が実施されていることから、引き続き計画に沿って調査を実施するが、指標については再検討を行う。 ③、④熱中症対策については、各自治体からの要請が非常に増えていることから、引き続き効率的な対応に取り組んでいく。  【測定指標】 ①花粉の予測については、今年度は引き続き本指標を用いるが、事業のあり方について今後、検討を行う。 ②黄砂の健康影響については、疫学調査が平成28年度までであることから、引き続き本指標を用いるが、目標患者数については、平成26年度の実績及び地域の患者数の実態を踏まえて再検討した。 ③、④熱中症対策については、自治体において暑くなる前の対策が進んできていることから、普及啓発の効果に関する指標を今後検討する。		
	学識経験を有する者の知見の活用	花粉の飛散量予測については、有識者を集めた「花粉飛散予測及び動態に関する検討会」を開催し、実施している。黄砂の健康影響については、有識者を集めたワーキンググループを開催した上で実施するとともに、「微小粒子状物質等疫学調査研究検討会」で進捗を発表している。		
政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報	平成26年度 花粉症に関する調査・検討報告書 平成26年度 黄砂による健康影響調査検討業務報告書			
担当部局名	環境保健部 環境安全課	作成責任者名 (※記入は任意)	政策評価実施時期	平成27年6月